

北海道医歌人会詠草

DMV(くるま)

温情もてあまたの弟子を育みし師は旅発ちぬ至言遺して

(魚住新先生を偲ぶ)

忽然の訃に自失せしわが耳に氣をひきしめよと師の声ひびく

(魚住新先生を偲ぶ)

美し国魑魅魍魎の群りて佳き味あらば貧らむとす

エルニヨとふ怪物動き地球をば併吞せむと画策しをり

年変り富士山麓に試されしDMVはまさに動かむとす

日常微吟

札幌 小国 孝徳

寝たきりの老は御免と来りたりゆたかにエルムの茂れる杜に

雪消えて人まばらなる構内に楡の緑を恋して入りきぬ

心臓の薬をのみて又歩む所どころに雪残る道

朝々のパン食に並ぶアスパラガス吾が青春のユニフォームの色

三回も切られて皺ばめる吾が腹のあはれを風呂場の鏡に見つむ

男系家族

札幌 古屋 統

嫁の胎三人目もまた男児にてやゝ氣を落とす息子のメール

三太郎抱えて姫に縁薄き父よく学べ元就の故事

内孫と外孫近く生まるゝを合せて五人みな男たち

孫ごとき詠むは愚かと警めしきみに叛くを潔しとす

孫達が喰べ残したるおぢやなど啜りて足れり晩酌の後

年始め

美唄 吉村 誠治

選挙近き交礼会の柿本道議握手は強し亥年なりせば

正月の交礼会の挨拶は熱氣強かり選挙も近し

七十三戸の町内会の新年会二人増えたり独居の老人

初詣で二人の孫と手を繋ぎ雪なき参道歩みは軽し

陽の差せる雪の少なき境内に暖冬異変の不安隠せず